

令和2年度 東京都立狛江高等学校学校経営報告

校長 平野 篤 士

1 今年度の目標の成果と課題

目標1（感染症対策）感染症予防の取り組み

- ・ 都の学校健康推進課、地域の保健所、学校医等からの指導助言に基づき、校内で3密（密閉・密集・密接）な状況を作らず、クラスター発生を防止する対策を行った。
- ・ 通年で時差登校を実施し、生徒の登下校時の感染症予防に努めた。緊急事態宣言再発令後は、分散登校も実施し、オンラインを併用した授業を行った。
- ・ 感染症予防策の徹底で、幸い校内感染は発生しなかったが、授業、部活動及び学校行事などに多大な影響があり、感染症対策と学校運営をいかに両立するかが課題である。

目標2（学習指導）授業日の確保とクラウドサービスやオンライン教材を活用した教育の充実

- ・ 臨時休業期間中は、Classi等のクラウドサービスを活用し、それが不調の際は学校公式サイトに設けた教材保管庫を活用するなどして、在宅する生徒へ授業や教材を配信した。
- ・ 緊急事態宣言再発令後には、主たるプラットフォームをTeamsに変更し、オンライン授業やホームルームを行った。
- ・ 課題はオンライン授業等の配信をICTネットワークに依存しているため、帯域が確保されず、配信の遅延や予期せぬ停止が生じてしまった。

目標3（進路指導）大学入学共通テスト等への対応

- ・ 今回初めての受験となる大学入学共通テスト、総合型選抜／学校推薦型選抜等に対応するために、新しい大学入試制度に関する情報を収集し、生徒や保護者に、時宜を逃さず提供した。
- ・ 授業日数確保のため短縮された夏季休業であったが、計画的・効果的な夏期講習計画を早期に立案し、提示することができた。また講習に参加できない生徒のために講習の動画配信も一部教科で実施できた。
- ・ 昨年度発表された共通テストの記述問題の出題や英語の外部試験導入の延期のみならず、今年度はeポートフォリオの導入まで中止になるなど、直前の大幅な変更で対応に苦慮した。

目標4（国際理解教育）国際交流代替案策定と次年度以降への環境整備

- ・ 新型コロナウイルスに対するオーストラリア政府の方針で中止となった同国キラウィ高校との姉妹校交流（短期交換留学）の代替案は国内施設（ブリティッシュ・ヒルズ）に変更し、次年度に実施する。
- ・ 「留学生が先生」事業を活用し、国際理解教室は開催できたが、東京外国語大学など大学等と連携した行事は中止を余儀なくされた。
- ・ 台湾の台北市立大同高級中学校との姉妹校交流（海外修学旅行）は、今年度は中止とし、国内の修学旅行として実施する予定としたが、緊急事態宣言の再発出により中止せざるを得なかった。

目標5（特別活動、部活動）部活動の再開準備と安全かつ効率的な運営

- ・ 臨時休業解除後に、感染予防に努めながら順次部活動を再開し、各部活動は、スポーツ庁・文化庁・文部科学省及び東京都教育委員会が示すガイドラインに沿った活動計画を定め、安全な部活動運営を行った。
- ・ 部活動顧問の配置については、新たに剣道部や陸上競技部に部活動指導員を配置し、特定の顧問に過重負担にならないように十分配慮した。
- ・ 緊急事態宣言の再発令により、現時点で部活動は停止している。この間、オンライン等を活用し、ミーティング等を行う部もあったが、宣言下での部活動の維持が今後の課題である。

目標6（生活指導）学校行事計画の見直しと生徒のメンタル面のケアへの配慮

- ・ 臨時休業で延期・中止となった学校行事を精査し、延期して実施できるものについては、感染予防に配慮し

ながら学年単位で都のガイドラインに合わせて、可能な限り実施した。

- ・ 新型コロナウイルス感染症の校内における予防法の啓発を行うとともに、長期の臨時休業によってメンタル面に不安を感じている生徒へのケアに努めた。
- ・ 保護者、家庭との連携体制を強化し、いじめゼロ、不登校ゼロ、特別指導ゼロ、遅刻ゼロの学校を目指した。いじめアンケートの結果は問題なかったが、不登校気味になってしまった生徒はゼロにならなかった。

目標7（教育的諸課題への対応）その他の様々な教育課題への対応

- ・ コロナ禍で延期になった芸術鑑賞教室は、時期を年度末に再延期し、校内で実施することとして、日本の伝統文化教育を推進した。
- ・ オリンピック・パラリンピック教育を推進し、レガシーとして長く継続していくために、球技大会に生徒がパラリンピック種目（ボッチャ）を体験できる機会を設けた。
- ・ 特別支援教育を推進するために、教員、生徒、保護者のそれぞれに、特別支援教育に関する理解を深める取り組みを行う予定であったが、コロナ禍のため実施できなかった。

目標8（学校運営）安心・安全かつ安定的な学校経営

- ・ 校内における新型コロナウイルス感染症予防対策について、逐次、生徒及び保護者や地域に情報を公開し、安心・安全な学校経営の取り組みを内外に発信した。
- ・ コロナ禍でも適正な入選倍率を確保しつつ、本校の特色を理解してもらうための募集広報計画を立案・実施し、一次入試で1.7倍の倍率を確保できた。
- ・ 学校における働き方改革推進を進めるため、業務の効率化に努め、月の超過勤務時間が80時間を超える教員をゼロにすることを当面の目標にしたが、達成できなかった。

2 重点目標と達成度

重点目標1 本校を第一志望とする生徒で、適切な入選倍率（一次、分割前期）を確保するため、一次、分割前期入選で、1.6倍程度の倍率を確保することを目標に、オンラインによる学校説明やVRを活用した学校紹介などを活用し、コロナ禍における募集広報活動を充実させた。その結果、目標を上回る1.7倍の倍率を達成した。

重点目標2 生徒の授業満足度75%以上を達成することを目標に、オンラインを含めた授業改善に取り組み、生徒の学校満足度（肯定的）90%以上を達成することを目標に、コロナ禍でも学校行事等を充実させる工夫をした。その結果、授業満足度は過去5年で初めて全学年とも80%を上回り、学校満足度も全学年で90%を上回り、目標を達成できた。

重点目標3 各学期（7月、11月、1月）に実施する模擬試験における、三教科の平均点偏差値の推移を通じて学力の伸びを把握し、1月の数値が、7月比でプラスになることを目標に、学習指導を充実させた。その結果、1年生は英数国総合の平均点偏差値が53.7（7月）から52.7（1月）に下がったが、2年生は49.3（7月）から49.4（1月）と僅かではあったがプラスを達成でき、生徒の学力が向上した。